

## 1 親切運動の取組の紹介

- ・ 5年総合的な学習の時間

「地域をよりよくするために自分たちにできることを考える」を通して

公民館館長さんや民生委員・児童委員さんの方々から、地域の現状や課題についてお話を伺い、地域で活動されている方々の思いや取り組みについて学んだ。また、公民館や学校での交流活動を重ねる中で、子供たちは、地域には様々な世代の方々が出て、そのつながりが地域を支えていることに気付いた。その学びを生かし、子供・大人・高齢者が一緒に楽しめる「三世代交流」の活動を自分たちで考え、企画し、その中で様々な人と親切に関わることについて学んだ。

12月、計画を基に、子供、親、おじいちゃん・おばあちゃんが一緒に参加する三世代交流会を行った。昔遊び、物づくり、体操、ミニゲーム、なぞなぞなどを行い、親子や祖父母と孫が一緒になって交流した。

関わる中で、祖父母世代から昔遊びの遊び方を教えてもらい、優しく接する姿が見られ、物づくりでは親子で協力し、相手のことを思いやりながら取り組む様子が印象的であった。体操やミニゲーム、なぞなぞでは近くの人に丁寧に関わっていた。交流を通して、子供たちは日頃お世話になっている人たちと親切に関わることのよさを感じていた。



## 2 親切運動に取り組んで

### 【取組の成果】

自分たちで課題を見出し、その課題を解決する取組を企画・実行する中で、人との交流を深め地域の活性化を図るうえで、親切に関わりながら活動することはとても大切なことであると学ぶことができた。一つの核となる活動を行ったことで、学校全体に学校の仲間や地域の人を大切にする気持ちが高まり、3年生や6年生の活動においても、異学年児童や地域の人に思いやりの気持ちをもって、優しく丁寧に関わる姿が見られるようになった。

### 【今後に向けて】

交流活動を通して、親切な思いやりの気持ちをもって取り組んだ行動を価値付ける場面が少し不十分であった。振り返りの場面で、親切な行動の具体的な場面を取り上げるようにすることで、より親切な関わりのよさを意識付けられるようにしていきたい。